



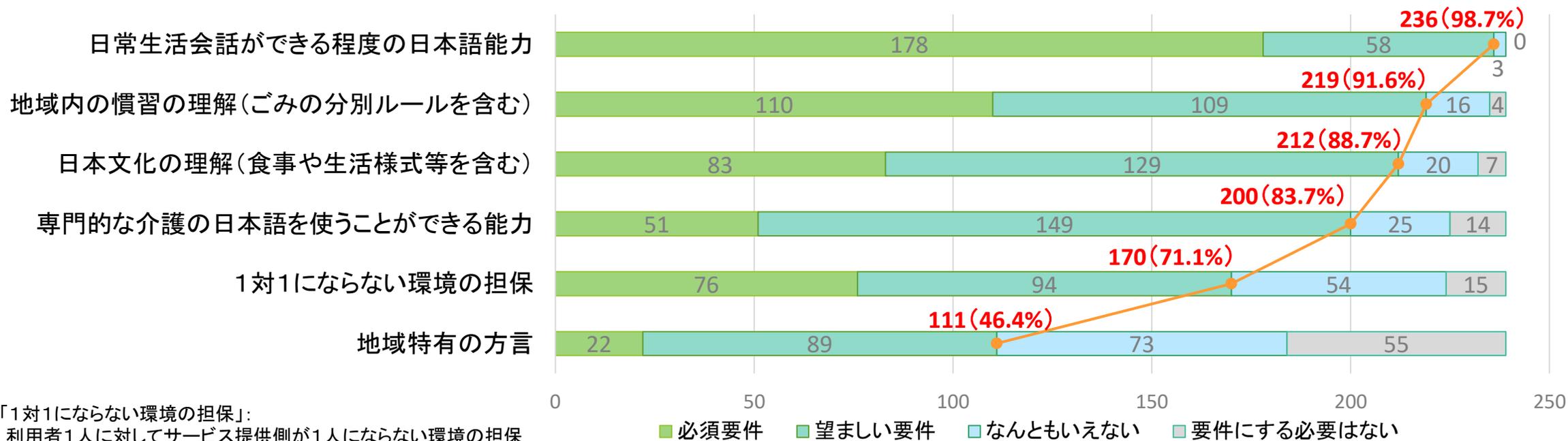
外国籍の介護人材が訪問介護サービスに携わることに対する介護福祉士の声

令和6年1月22日

公益社団法人日本介護福祉士会
副会長 今村文典

外国籍の介護人材が訪問介護サービスに携わることに対する介護福祉士の声

①介護福祉士資格を持たない外国籍の介護人材が訪問介護サービスを担う際に必要とされるスキル・環境



(その他の意見)

○スキル等

- ・ 移動手段
- ・ 身だしなみ
- ・ 人間性
- ・ 高い倫理観
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 緊急時に対応できる能力

○環境等

- ・ 受け入れ態勢(生活、家族等)
- ・ 教育・指導体制
- ・ 支援体制(相談、フォロー等)

※運営サポーター調査の概要

調査対象: 500名

(令和4年11月30日時点登録者)

調査期間: 令和4年11月16日～同11月30日

有効回答: 239件(有効回答率47.8%)

外国籍の介護人材が訪問介護サービスに携わることに対する介護福祉士の声

②必要とされるスキル・環境に関する理由、外国籍の介護人材による訪問介護サービスのあり方等

(自由記述より)

○日本人であっても同様に必要とされるスキル・環境であって、国籍によるものではない

- ・ コミュニケーション能力。国籍の問題ではなく、利用者様が不安を感じない対応ができれば問題はない。
- ・ 方言は同じ日本人でも苦しむ。分からなかったときの聞き返し方等を学ぶ機会が必要。
- ・ 日本人であっても、特に若年層であればあるほど、日本の文化や地域の理解ができているとは限らない。
- ・ 1対1という環境の中で、利用者の支援がどれだけできるのかという不安があるが、それは日本人でも同じことが言える。

○生活歴の理解など、日本の文化や考え方の理解が必要であることによるハードルの高さ

- ・ 日本語スキルのほか、接遇やマナー的なものが必要。ただ援助をするだけでなく、日本特有の関わり方が必要。
- ・ コミュニケーションは生活・文化を如実に反映する。
言語の十分な理解とともに文化の理解がないと、現状をベースとした在宅支援が難しいと言わざるを得ない。
- ・ 外国と日本との環境の違いや生活習慣の違いがサービスに影響を与える。
- ・ 言葉の理解、個別の生活様式を把握する中で、複雑な課題に立ち会った際に1対1では対応しきれない場合もあるのではないか。

○高い倫理観や尊厳の理解

- ・ 訪問介護は1対1でのサービス提供となり、かなり幅広い知識が求められるとともに、高い倫理性も必要。
- ・ その方の人間性、介護福祉で働く者としての倫理や理念を有していれば、①図の項目は働きながら学んでもいい部分、あとからついてくるようなものという気がする。
- ・ 当たり前なことだが、尊厳の理解が必要。
- ・ 利用者へ寄り添う気持ちと尊厳を大事にするため、信頼関係や対話を大切にする。

外国籍の介護人材が訪問介護サービスに携わることに對する介護福祉士の声

まとめ

外国籍の介護人材が訪問介護サービスに携わるに当たっては、
利用者の尊厳を守るとともに、質の高い介護の提供を担保するための要件が必要である

- ・ 日本語能力は必須である
- ・ 「必須要件」「望ましい要件」の合計で見ると、「地域特有の方言」を除けば、いずれも高い割合を占め、担保すべきスキル・能力である
- ・ 「利用者1人に対してサービス提供側が1人にならない環境の担保」については、国籍の問題ではないが、“生活歴の理解など、日本の文化や考え方に対する理解が必要であることによるハードルが高い”との指摘もあり、一定期間の同行訪問によるスキル等の確認は必要である